

瀋陽駐在員事務所

瀋陽市政府代表团、富良野訪問

8月2日、瀋陽市の瀋北新区副区長を団長とする瀋陽市代表团が富良野を訪問しました。現在、瀋陽市瀋北新区では、区内に「ラベンダー畑」を作る構想を進めています。今回の訪問目的は、ラベンダーで有名な富良野の視察と、現地関係者との交流です。深山峠観覧車で十勝岳連峰を一望した後、フラワーランドかみふらの、ファーム富田、富良野森のガーデン美術館などを視察しました。富良野市長への表敬訪問には、ふらの観光協会会長、富良野商工会議所会頭が同席しました。充実したスケジュールをこなした代表团は、満足した笑顔で手を振り、フラノラベンダーエクスプレスで札幌へ移動しました。

今回の視察は、すべて富良野支店がセットし、瀋陽市代表团は、すっかり「道銀ファン」になって帰りました。これから、何か良いビジネスの話があれば、真っ先に瀋陽事務所に相談に来るでしょう。瀋陽に「ラベンダー畑」がお目見えする日は近い。「富良野支店の皆様、非常感謝（ありがとうございました）！」

正司 毅



ユジノサハリンスク駐在員事務所

「Икра(イクラ)が大好物」

このサハリンでは日本人が好む食材が豊富です。山のものとしては、代表的なものは「マツタケ」であり、その他の山菜も多く取れます。一方水産物では代表的なものが「カニ」ですが、その他には「ウニ」「コンブ」「イクラ」などあげられます。特にイクラについては、日本人なら「ご飯」にですが、ロシア人も同様に「黒パン」にのせて食べるのが大好きで、パーティなどではウォッカ同様イクラも必ずといってよいほど用意されています。

四面を海で囲まれているサハリンは、今の時期「ガルブーシャ（鱒）」がまた9月以降は「ケタ（鮭）」が多く取れることから、イクラの大生産地となっております。ユジノ市内から車で約1時間のスタドロプスコエ（日本統治時代名：栄浜）にある工場では、魚があがる午後1時過ぎから、「イクラ」製造が始まります。数年前までは殆ど全て手作業で行われていましたが、最近はお道内企業が製造した「鮭鱒処理機」を導入し、作業効率が大幅にアップしたとのこと。この工場で製造されたイクラは、大陸に運ばれモスクワ、サンクトなどの大都市ばかりでなく、最近では外国からの引き合いも多くなっております。

對馬 雅弘



(財)日中経済協会北京事務所

8月駐在員レポート ~当行研修団~

7月25日より、当行研修訪問団が来華しました。北京に来た後瀋陽に行く行程の中で、北京では故宮・万里の長城の世界遺産見学、地元高級スーパー・当事務所・知的財産権法律事務所等（まだ、あります）の見学がタイトなスケジュールで組み込まれていました。夜は食事後も少数民族である苗（ミャオ）族が営むお店で職員同士、苗族との交流を図り、皆さんお疲れだったとは思いますが、中国を堪能していただきました。

小職が昨年4月に赴任以降、仕事・プライベートを含め数多くの来客があります。当初中国へのイメージがマイナスな方でも、帰り間際は殆どの方が「想像していたのと違い、非常に良い所だった、発展していた」と言って日本に戻っていきます。普段中国で生活している駐在員として短い時間ながら少しでも中国の実情をその方達に伝え、新たなビジネスチャンスが北海道で生まれると信じ、来客の際は全力を尽くしています。

中島 康成

